



Lightwinder Commander V3 Ver.1.5.0

リリース・ノート

オタリテック株式会社

2025 年 1 月 23 日

Lightwinder Commander V3 (以下 LwcV3) Ver.1.5.0 をリリースいたしました。Ver.1.4.1 からの主な変更内容は下記の通りです。不具合については、特に明記がなければ Ver.1.4.1 での発生内容を記しています。また、不具合を生じる LWB 本体のファームウェアはバージョン = Ver.3.1.1* であることを想定しています。

Ver.3.1.1*) LWB-24A/72A のバージョンは LWB-24/72 のバージョンから 2.0.0 を引いたバージョンとなります (LWB-24/72 で Ver.3.1.1 の場合、LWB-24A/72A では Ver.1.1.1)。本書内のバージョン表記は全て LWB-24/72 のものとなりますのでご注意ください。また、LWB-24/72 と LWB-24A/72A とを区別する必要の無い場合には、LWB-24/72 と記し、この中に LWB-24A/72A も含むものとします。LWB-16S/64S は一部の機能が無効であることを除いて LWB-24/72 Standard Edition と同等です。

【 語句について 】

- ・アプリケーション・エラー: 「アプリケーションのコンポーネントで、ハンドルされていない例外が発生し...」で始まるメッセージが記されたダイアログボックスが表示されるエラー
- ・オンライン・モード: CONTROL または MONITOR モード (LWB 本体と接続/通信しているモード)
- ・2472 モジュール: LWB-24/72 専用の I/O モジュール (“2472 Mic モジュール” のようにも記載します)
- ・レガシー・モジュール: LWB-16/64 でも使用可能な I/O モジュール (“レガシーMADI モジュール”, “レガシーMic チャンネル” のようにも記載します)
- ・FS: サンプリング周波数
- ・ソース (・チャンネル): ルーティング設定されている (と仮定した場合の) 入力側のチャンネル

1 修正された不具合

1-1 アプリケーション・エラーが発生することがある以下の不具合

- ・以下の手順でルーティング設定操作を行う
 - ① オンライン・モードでルーティング・ウィンドウを開き、その後 OFF-LINE モードに切り替える
 - ② ファイル・メニューの「新規」を選んだ後、オンラインには存在しないユニット ID の LWB で構成されたファイルを開く
 - ③ ルーティング・ウィンドウは閉じたまま、I/O モジュールタブにてルーティング設定を行う
- ・ルーティング・ウィンドウを一度も開かず、ルーティングの初期化を実行し、その後、ルーティング No. 2048 を任意の出力チャンネルに設定する
- ・設定ファイル (.csv) を Excel (Microsoft 社製アプリケーション) にて保存したファイルを開く (フリーズとなる場合もある)

1-2 OFF-LINE モードにて生じる以下の不具合

- ・System タブにてチャンネル設定を初期化したとき、レガシーMADI モジュールのチャンネル・パラメーターが初期化されない。
- ・チャンネル・パラメーターを含めて LWB ユニットのコピー (操作手順: Devices ウィンドウにて任意の LWB の名称部を右クリックし、メニューより「LWB コピー」を選択 → Copy ダイアログにて “Copy Ch Parameters & ...” チェックボックスをチェックして追加を実行) したとき、2472 モジュールの FS 設定がコピーされない。
- ・チャンネル名を含めて LWB ユニットのコピー (操作手順: Devices ウィンドウにて任意の LWB の名称部を右クリックし、メニューより「LWB コピー」を選択 → Copy ダイアログにて “Copy Ch Names” チェックボックスをチェックして追加を実行)、またはユニット ID を変更したとき、その後、I/O Module タブにて「適用」ボタンをクリックすると、選択されているモジュールの全チャンネル名が消失する。
- ・「全て初期化」を実行したとき、レガシーGPI モジュールの In/Out 設定と GPI No. およびコメントリー・ボックスの GPI No. が初期化されない。
- ・Embedded Audio タブに、任意の Mux チャンネルとルーティングされたコメントリー・ボックス本線の Mic パラメーターを表示しているとき、その Embedded Audio モジュール内で Mux/De-Mux の切り替えや SRC のオン/オフを行うとコメントリー・ボックス本線の Mic パラメーターが不正な値で更新される。

1-3 フィックスド MADI モジュールの FS が 192kHz に設定されているとき、Fixed MADI タブの Level 欄の表示が不正

補足: IN n チャンネル (n: 1~16 の整数) に入力がある場合、IN $((n-1) \times 4) + 1$ ~ N $((n-1) \times 4) + 4$ チャンネルの 4 チャンネルにレベルが表示される。OUT n チャンネルの場合も同様。(例: IN 2 に入力があると、IN 5 ~ IN 8 にレベルが表示される。)

1-4 LWB 本体のレガシー・モジュール FS(LgcyMdlFs) が 96kHz に設定されている場合に生じる、レガシー MADI モジュールに関する以下の不具合

- ・ I/O Module タブの Level 欄に出力チャンネルのレベルが表示されない。
- ・ ルーティング・ウィンドウのルーティング・リスト上で出力チャンネルのルーティング設定を削除したとき、同チャンネル・リスト上の当該チャンネルの表示が赤字イタリック表示にならない。
- ・ I/O Module タブにて「チャンネル名をコピー (入力→出力)」をチェックして「適用」したとき、既にルーティング No. の設定されている出力チャンネルに入力チャンネルの名称がコピーされない。

1-5 I/O Module タブ等に表示出力チャンネルを表示して、そのソースとなる Mic チャンネルのチャンネル・パラメーターを設定する場合、以下の操作を行うと不正な値が Gain 欄に表示される

- ・ “Pad Added” をオンして、PAD=オンのチャンネルのゲイン値を設定範囲外の値に設定しようとするとき、(設定は変わらず、) Gain 欄に “Pad Added” がオフのときの値が表示される。
- ・ また、LwcV3 Ver.1.4.1 の場合、その値は、操作したチャンネルによらず CH1 の Gain 欄に表示される。

補足: 当該の操作を行うには、プリファレンス・メニューの「出力表示からマイクを制御する」をチェックしておく必要があります。

1-6 プリファレンス・メニューの「ユニット No.優先」をチェックしてファイルを開くと、「ユニット No.情報が正しくありません。」と表示される

補足: この不具合は LwcV3 Ver.1.4.0 以降で保存したファイルを、同 Ver.1.4.0 または Ver.1.4.1 で開くときに発生します。なお、この場合も、キーワード“CLK”のチェックを外すとファイルを開くことができます。

1-7 コメントリー・ボックス CB-186/187 の CH2 にグループ No.を設定した場合に生じる以下の不具合

- ・ CH2 はモニター／リッスンのみ可能でトーク・チャンネル (B.Talk) は存在しないが、この存在しないトーク・チャンネルにルーティング No. が設定される (ルーティング・ウィンドウに表示される)。
- ・ また、存在しない CH2 のトーク・チャンネルにルーティング No. が設定された状態で保存されたファイルを開こうとすると、「チャンネル No. またはチャンネル数の数が範囲外です。」のメッセージが表示されファイルを開けない。

補足: この不具合は CONTROL、OFF-LINE の両モードで生じますが、CONTROL モードでの動作を正しくするためには、LWB-24/72 ファームウェアもバージョンアップする必要があります (「LWB-24(A) / LWB-72(A) ファームウェア Ver.3.2.0 リリースノート」の 1-8 項を参照してください)。

1-8 LWB ユニット ⇄ PC(LwcV3)間で原因不明の通信エラーが発生する

補足: LwcV3 Ver.1.4.1 (以前) では、オンライン・モード時に、突然、「PC と LWB との TCP/IP 通信に異常が発生しました」とのメッセージがポップアップされることがあります (原因は PC、USB⇄LAN 変換アダプター、OS バージョン等のハードウェアに依存している可能性があります)。同 Ver.1.5.0 では、当該の通信エラーに限り通信のリトライ回数を増やすことで自動的に回復します。なお、回復した場合にはメッセージ「ネットワークまたはホストに到達できない通信エラーが発生し、回復しました。」が Status & Messages ウィンドウに表示されます。

1-9 設定ファイルを「プログラムから開く」で LwcV3.exe を指定したとき、LwcV3 が正しく起動されない場合がある

補足: LwcV3 をバージョンアップした後に「プログラムから開く」にて LwcV3 を指定したとき、以前のバージョンでも「プログラムから開く」を使用していた場合は、LwcV3 が起動しませんでした (※以前のバージョンの LwcV3 をアンインストールしていない場合は、以前のバージョンの LwcV3 が起動)。

1-10 接続している LWB ユニットの台数に増減があると、ユニット ID 毎に記憶／復元する Topology タブ上の各ユニットの表示位置が変わる

2 改良または追加された機能

2-1 2472MADI モジュール, Dante モジュールおよび CWDM モジュール対応

備考: 2472MADI モジュールと Dante モジュールは I/O Module タブにて, CWDM モジュールは CWDM タブにて基本的な操作および監視を行います。

各モジュールの詳細については『LWB-24 / 72 取扱説明書 第 5.3 版(以降)』を参照してください。

2-2 SDI ビデオのマルチ・フォーマット(LWB-24/72 ファームウェア Ver.4.0.0)対応

補足: LWB-24/72 本体のファームウェアを Ver.4.0.0(以降)にすると, チャンネル毎に異なるフォーマットの SDI 信号を送送できます。これに伴い, LWB-24A/72A の場合はフォーマットを設定するのではなく, HD-SDI または 3G-SDI を選択する操作となります。

また, OFF-LINE モードで LWB-24/72 を追加するダイアログボックスには Expanded Edition, Standard Edition に加え, Async (Expanded Edition)の選択肢と"SDI Mlt Fmt"チェックボックスが追加されています。

詳しくは『Lightwinder Commander V3 ユーザー・マニュアル 第 3.2版(以降)』および『LWB-24 / 72 取扱説明書 第 6.0版(以降)』を参照してください。

2-3 ルーティング・ウィンドウにて「適用」を実行したとき, 同ウィンドウのモードを“編集”のまま保持する機能を追加

補足: LwcV3 Ver.1.5.0 では, ルーティング・ウィンドウに追加された「Back to Monitor」チェックボックスがチェックされている場合のみ, 「適用」後, 自動的にモニター・モードに移行します。

2-4 表示チャンネル切替ボタン・パネルの移動と前面表示, Multi Ch Routing パネルの前面表示の機能追加

補足: LwcV3 Ver.1.5.0 では, 表示チャンネル切替ボタン・パネル(Fixed MADI タブ等に表示)のドラッグ&ドロップ移動が可能です。また, Multi Ch Routing パネル(同 Ver.1.2.3 以降でドラッグ&ドロップ移動対応)と重なった場合, パネルをダブルクリックすると, そのパネルが前面に表示されます。

2-5 LwcV2 V230 フォーマットの LWB-16M/64 用設定ファイルを開く機能を追加

補足: 当該の LWB-16M/64 用設定ファイルは LwcV3 Ver.1.5.0(以降)の OFF-LINE モードでのみ, LWB-16M を LWB-24 または LWB-16S に, LWB-64 を LWB-72 または LWB-64S に置き替えて開き, LwcV3 のファイルとして保存することができます。詳しくは『Lightwinder Commander V3 ユーザー・マニュアル 第 3.2 版(以降)』を参照してください。

2-6 Err021(Embedded Aud Err)発生のエラー・ダイアログに「Err21(Embedded Audio SRC エラー)を全てクリア」するボタンを追加し, 1 クリックで当該エラー・ダイアログを全て閉じることができるように変更

2-7 フィックスド・モジュールがオーディオ出力チャンネルのルーティング No.をコピー & ペーストする機能に対応

補足: Delay 入力チャンネル, Fixed MADI 出力チャンネル, Embedded Audio の Mux に設定されたチャンネルについて, 当該機能に対応しました。

2-8 “Master(Mstr) / Slave” の表記を “Leader / Follower” に変更

以上